社会福祉法人 福島県社会福祉協議会

2024
9月
No.331

ホットな福祉情報誌

はあとふるふくしま

特集 避難者支援における「個」の支援と「地域」支援の一体的な展開
～南相馬市社協における避難者支援の取組～

シリーズ ［未来へつなごう“ふくしま”から］
「北海道・東北ブロック社会福祉法人経営青年会セミナー 福島大会」開催
～社会福祉法人同士がつながり、学び合う場の醸成に向けて～

はじめての保育士体験。
最初はちょっとドキドキしたけど、
子どもたちの笑顔に癒されました。
～サマーショートボランティア体験～
（清陵情報高等学校×
おひさまなのはなこども園・須賀川市）

目の不自由な方のために「はあとふるふくしま」は音訳版および点訳版を作成しています。

「はあとふるふくしま」は作成経費の一部に、共同募金配分金及び特別賛助会員の寄付金を使用しています。

特集
ZOOM UP

避難者支援における「個」の支援と「地域」支援の一体的な展開

～南相馬市社協における避難者支援の取組～

令和5年度に福島県社会福祉協議会が実施した「復興公営住宅入居者実態調査」において、高齢化に加え、単身化と孤立化が進み、復興の時間の経過とともに、新たな課題が浮き彫りになってきていることがわかりました。令和4年度には避難者地域支援コーディネーター（以下、「コーディネーター」）が配置され、避難者支援は、個別支援と地域支援を両輪とする一体的な支援に拡充してきました。そこで今回は、復興公営住宅等における課題に取り組む南相馬市社会福祉協議会（以下、「南相馬市社協」）の避難者支援とコーディネーターの活動に焦点を当ててご紹介します。

南相馬市社会福祉協議会
生活支援相談室の
皆さん

東日本大震災から13年。南相馬市の今

南相馬市は、鹿島区、原町区、小高区の3つの区で構成されます。平成23年3月に発生した東日本大震災（地震・津波・原発事故）により、3つの区それぞれが甚大な被害を受け、多くの住民が避難生活を余儀なくされました。

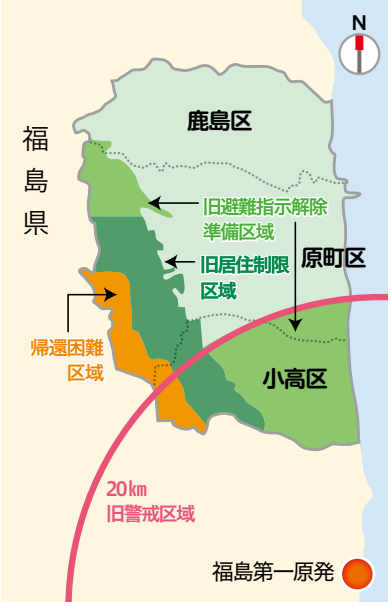
特に、小高区では避難指示解除まで5年以上を要したため、他の地域に住居を移した人が多く、他区に比べて帰還者の割合が低い状況です。

南相馬市社協では、平成23年8月から生活支援相談員を配置し、仮設住宅での戸別訪問を開始。南相馬市は他の地域へ避難した人が多くいる「避難元」である一方、他町村から南相馬市へ避難し、復興公営住宅等で生活している人にとっては「避難先」でもあります。そのため、現在は他町村社協などと連携を図りながら、「避難先」社協としての支援も展開しています。

南相馬市における見守り・相談支援対象世帯の約8割は避難前の住宅や避難先で再建した住宅等において生活していますが、約2割は現在も復興公営住宅や災害公営住宅で暮らしています。

また、徐々に住環境が安定してきた一方、見守り・相談支援対象者の53％が65歳以上の高齢者となっており、年々高齢化が進んでいます。特に、復興公営住宅における高齢者単身独居世帯への見守り強化が必要です。（P3 図1・図2）

避難者の生活環境の移り変わりに伴い変化してきた相談内容や課題を踏まえ、南相馬市社協が行っている支援についてお話を伺いました。



（平成28年7月12日時点）

Interview

避難者支援は「個別支援」と「地域支援」を両輪とする一体的な支援に拡充しています

南相馬市の避難者支援活動を行っている南相馬市社協の黒木室長に、支援内容の変化、今後の支援についてお話を伺いました。

南相馬市社会福祉協議会
生活支援相談室室長
黒木（くろき） 洋子（ようこ）さん

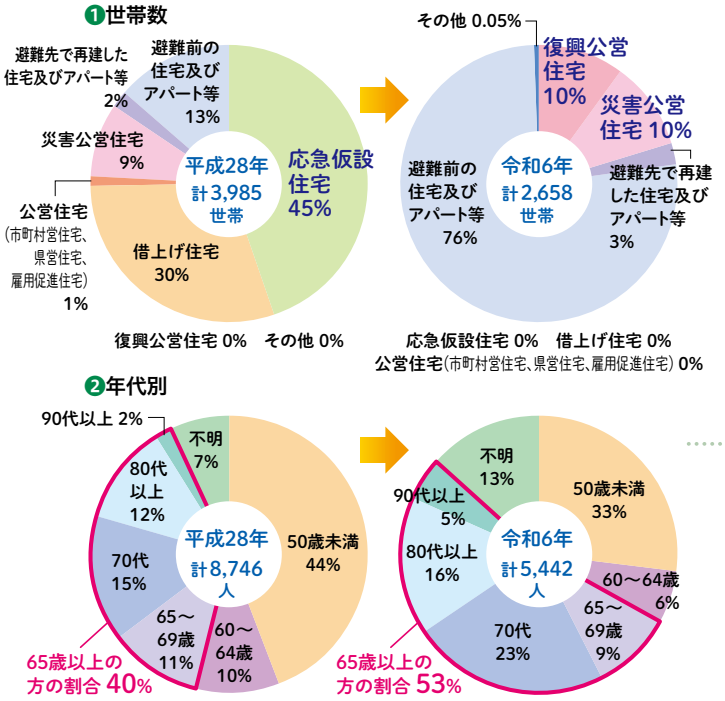
■精神的なサポートから高齢化による介護などの相談に変わってきています

震災以降、応急仮設住宅から借上げ住宅、そして復興公営住宅や災害公営住宅と、避難者が暮らす環境は変わってきました。震災直後は、震災や原発事故で受けた精神的ショックや、今後の生活に見通しが立たないことへの不安が大きかったため、仮設住宅で相談員による「365日巡回訪問」を行ったり毎週サロン活動を行ったりして、避難者の精神面でのサポートを行いました。

仮設住宅から復興公営住宅に移った方々は、集合住宅に住むのが初めての方がほとんどです。近隣との付き合い方に悩んだり、孤独を感じたりする方が多くいたので、サロンなどを通して新たなつながりづくりに取り組みました。

現在は、避難生活が長期化し、避難者の高齢化が進むにつれ、介護のことなど、生活上の困りごとに関する相談が増えています。これらの問題を関係機関と連携し対応を進めているところです。

図1 南相馬市における見守り・相談支援対象世帯数及び年代別数



■地域のつなぎ役 避難者地域支援コーディネーター

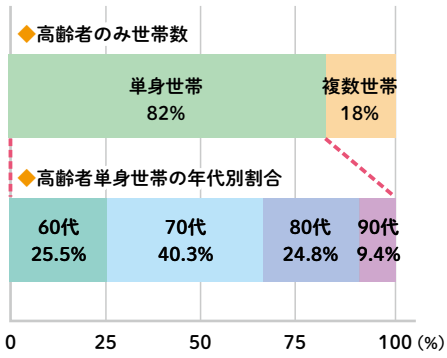
コーディネーターが配置されたことで、避難者支援はこれまでの「点」＝個別訪問などによる支援体制に加え、「面」＝地域支援を含めた新しい支援体制へと拡充しています。南相馬市社協では、市民と他町村からの避難者を区別することなく、同じく南相馬市で暮らす「住民」という視点での地域支援を行っています。

コーディネーターは立地地域の区長や民生委員が集まる場に参加し、協力を促すことで、避難者と地域のつなぎ役としての役割を果たしています。区長や民生委員も、コーディネーターからの情報提供によって復興公営住宅の住民との関わりが円滑に持てるようになりました。

震災から13年が経過し、現在では避難者も「地域の一員」であるという認識が根付いてきています。「地域のコミュニティづくりを促進し、分け隔てない関わり合いができたら」と期待する黒木室長。

次のページからは南相馬市における課題解決に向け、実際にコーディネーターが行っている活動についてご紹介します。

図2 南相馬市の復興公営住宅における高齢者世帯の状況（令和5年）



■南相馬市における課題

- 高齢化・単身化に伴う孤独・孤立の防止
- 復興公営住宅立地地域住民とのつながりづくり

Interview

避難者地域支援コーディネーターは地域のコミュニティづくりを促進しています

■住民同士のつながりづくりと地域との交流の推進

復興公営住宅は、いろいろな市町村から避難している方々が集まっているため、初めは住民同士のつながりがほとんどありませんでした。南相馬市社協では、高齢化が進行する中で住民同士がつながりを持ちながら、健康的に暮らせるコミュニティづくりが必要だと考えていました。しかし、「当初は、南相馬市社協だけで事業のチラシを作成して全戸配布しても、参加者が少なかった状況でした」と、以前の様子を振り返るコーディネーターの千尋さん。

そのため、新たに老若男女問わず参加できる「ラジオ体操」を企画し、避難元町村社協に協力を依頼しました。「チラシにも避難元の社協名を入れたところ、自分の住んでいた市町村の名前があったことで安心したのか様々な避難元の住民の皆さんに参加してもらえるようになりました。各種事業を行ううちに住民同士が顔を合わせるようになり、どの市町村から避難してきたかという意識は薄れ、一緒に散歩する姿なども見られるようになりました。また、復興公営住宅住民が孤立しないように、地域住民とのコミュニティづくりのため、区長と民生委員の協力を得て和やかに交流会を実施することができました」と千尋さん。

北原団地 みんなのラジオ体操

地域住民と復興公営住宅住民との交流会

大馬（だいま）一日所長（※秋田県から寄贈された秋田犬）とおだかのまち散歩

伝承遊び
おもちゃ作り体験
「つくって遊ぼう♪」

南相馬市
社会福祉協議会
避難者地域支援
コーディネーター
千尋（ちひろ） 淳子（じゅんこ）さん

南相馬市
社会福祉協議会
地域福祉課 主事
兼避難者地域支援
コーディネーター
山田（やまだ） 恵美（えみ）さん

■6社協が連携して見守り活動を行うことで社協の存在がより身近に

小高区の活動の様子を話します。

コーディネーターの山田さんは「小高区は、65歳以上の高齢化率が約50％になっていますが、災害時に役立つ地域の情報を確認しながらまち散歩を行ったり、多世代交流事業として地域の子ども達とおもちゃ作りを行ったりと、地域の実情に合わせた事業を行っています」と

南相馬市社協では、富岡町社協、大熊町社協、双葉町社協、浪江町社

協、飯舘村社協との連名で見守り活動のチラシを作成して復興公営住宅全戸に配布しました。「具体的に6つの社協名が並んでいることによって、どの町村から避難しているかに限らず『あそこの部屋の方心配なんだけど』と住民の方から声をかけていただくことがあります。住民間で互いに気遣いあう関係性が徐々にできてきました」と語る千尋さん。チラシ作成を機会に、6つの社協が垣根を越えてお互い密に連絡を取り合うようにもなりました。社協が連携して見守り活動をすることで、避難先社協である南相馬市社協の存在もより身近に感じているようです。

見守り活動での一コマ

コーディネーターなどによる連絡会議の様子

■有益な情報を提供・共有し住民に発信

関係社協によるコーディネーターなどの連絡会議では、同じ団地の住民を支えるコーディネーターの共通認識を図ることで、協力体制の強化や幅広い情報収集を行っています。

「例えばこの連絡会議の中で、『地域のサロンへの送迎サービスがあります』という情報を提供いただいたら、対象となる住民にもその情報を発信するようにしています」と山田さん。情報の提供や共有を図り、6社協の連携を深める重要な場となっています。

■避難者支援の取組をこれからの地域支援につなげていきたい

「高齢・独居・孤立・近隣とのコミュニティなど復興公営住宅で起こる課題は周辺地域よりも先行しています。避難者支援で取り組んでいる経験を、今後は市全体の地域支援に活かしていきたいです」と黒木室長は最後に締めくくりました。

プロジェクト
進行中！

地域住民との交流をめざして「移動図書館」に合わせた居場所づくりを進めています

南相馬市では、今年4月から車に図書館の本を載せて貸し出しを行う「移動図書館」が、新たに4カ所の復興公営住宅を巡回するようになりました。南相馬市社協では、この移動図書館が巡回する時間帯に合わせ、集会所で避難者と地域住民がふれ合うきっかけづくりを、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、飯舘村の各社協と相談しながら進めています。

サロン事業などの交流事業に参加していなかった人たちが、移動図書館を利用している様子も見られることから、お茶を飲んでくつろいだりおしゃべりを楽しんだりして過ごせる居場所を提供することで、これまで以上にコミュニティの輪を広げていこうとしています。

「北海道・東北ブロック社会福祉法人経営青年会セミナー 福島大会」開催

～社会福祉法人同士がつながり、学び合う場の醸成に向けて～

約100名の参加があった本大会。福島県外からも多くの方が参加し、学びの多い会となりました。写真は雄谷良成さんが講演をしている様子。

取材協力
福島県社会福祉法人経営者協議会青年部会
福島市渡利字七社宮111番地

ICT（情報通信技術）の導入で、人間にしかできない業務に集中する

令和6年7月26日、ホテル福島グリーンパレス（福島市）にて「北海道・東北ブロック社会福祉法人経営青年会セミナー福島大会」が開催されました。今回のセミナーのテーマは「ICT導入による業務改善と質の向上」と「社会福祉法人が担う創造的復興」です。

はじめに、愛知県名古屋市で保育所・認定こども園などを運営する「社会福祉法人みなみ福祉会」の理事長、近藤敏矢（こんどうとしや）さんが施設のICT導入について講演を行いました。みなみ福祉会では、園児の登降園の打刻や遅刻欠席連絡対応、お知らせ配布などをICT化したことで、保育士1人あたりの子どもと関わる時間を1日1時間増やすことに成功。「現代はVUCA（ブーカ）※1の時代と言われ、さらにそこにダイバーシティ（多様性）やコンプライアンス（法令順守）などの課題があります。そして、労働者人口は減少の一途をたどっています。こうした中、デジタル技術の活用により、機械ができる業務は機械に任せて、人間は人間にしかできない業務に集中することが大切です」と述べた後、具体的なICTツールやアプリケーション、DX※2事例の紹介を行いました。

「環境や状況の変化が早い現代こそ、ICT化をいち早く進める必要があります」と説明する近藤さん。

時代の流れや福祉分野のDX取組状況をもとに業務効率化について講演を行いました。

「ごちゃまぜ」が人間本来の「生きる力」を強くする

次に講演を行った「社会福祉法人佛子園（ぶっしえん）」の理事長、雄谷良成（おおやりょうせい）さん

※1 VUCA（ブーカ）：Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取ったもの。
※2 DX（＝Digital Transformation（デジタル トランスフォーメーション）の略）：デジタル技術の活用により、業務の進め方等を変革し、新たなサービスや価値等を創造すること。

赤い羽根でささえあい

社会福祉法人 福島県共同募金会
〒960-8141 福島市渡利字七社宮111（福島県総合社会福祉センター内）
電話 024-522-0822　FAX 024-528-1234
メールアドレス　akaihane@axel.ocn.ne.jp
ホームページ　https://akaihane-fukushima.or.jp/

赤い羽根共同募金運動スローガンの入選作品が決定しました!

福島県共同募金会では、共同募金運動をより身近に感じてもらい、ともに支え合う福祉のまちづくりへの関心を高めることを目的に、毎年スローガンの募集を行っております。今年は、1040点ものご応募をいただき、去る7月1日開催の募金委員会において審査した結果、下記のとおり入選作品が決定いたしました。たくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

●応募期間：令和6年4月1日～5月31日

【最優秀賞】

赤い羽根 笑顔とエールの 思い込め
橋本（はしもと） 芽依（めい）さん（福島県立あさか開成高等学校3年）

【優秀賞】

つなぎます みんなの優しさ 赤い羽根
佐藤（さとう） 生実（いくみ）さん（福島市立清水小学校6年）

赤い羽根 心をつなぐ かけ橋に
早尾（はやお） 朔（さく）さん（郡山市立多田野小学校6年）

助け愛 支え合いの輪 赤い羽根
豊野（とよの） 真彩（まや）さん（国見町立国見小学校6年）

赤い羽根 身近にできる 助け合い
西方（にしかた） 夢翔（ゆめと）さん（福島県立あさか開成高等学校2年）

赤い羽根 勇気と優しさの めぐり愛
大村（おおむら） 瑠華（るか）さん（東京都 成城学園高等学校3年）

支え合う それぞれの手に 赤い羽根
武田（たけだ） 悟（さとる）さん（宮城県）

優しさを 運ぶつなげる 赤い羽根
山影（やまかげ） 敏康（としやす）さん（静岡県）

赤い羽根 未来につなぐ 思いやり
野口（のぐち） 成人（なりひと）さん（滋賀県）

は、石川県白山市に本部を構え、子どもや高齢者、障がいのある方など全ての人が「ごちゃまぜ」で暮らせるまちづくりに取り組んでいます。元日に起きた令和6年能登半島地震では自施設も被災し、その後の支援や体験をもとに「社会福祉法人が担う創造的復興」というテーマで講演を行いました。「福祉の原点は〝その人の生きる力を強くする〟こと。障がいのある方も高齢者もみんなが「ごちゃまぜ」で暮らすことでその人本来の生きる力が湧いてきます。災害が起きたら前に戻すのではなく、前よりも良くしていくという意識で、復興支援に取り組むことが大事です」と述べました。

「災害が起きた際、人命救助期間が終わった直後から復興支援を行うことで災害関連死を少なくすることができるはず」と話す雄谷さん。

今回のセミナーを主催した福島県社会福祉法人経営者協議会青年部会部会長の廣川宗之（ひろかわたかゆき）さんは「今回は具体的な事例を学ぶことができました。青年部会としては、今回のような学びの多い会を開催し、法人同士のつながりを生むきっかけづくりをしていきたいです」と話してくれました。

「セミナーの開催や広報活動などを通して青年部会をPRし、所属メンバーを増やしたいです」と青年部会長の廣川さん。

青年部会は、法人の青年役員等の資質向上のため、広い視野とリーダーシップを持った人材を育てようと平成26年に発足。以来、研修会の企画・実施や会員同士の自己研鑽・交流等の活動を行っています。

発行・企画編集　社会福祉法人 福島県社会福祉協議会
TEL(024)523-1251㈹　FAX(024)523-4477
URL https://www.fukushimakenshakyo.or.jp
メール heartful@fukushimakenshakyo.or.jp

※本誌に掲載の記事・写真・イラストの無断転載・複製を禁じます。

発行日／令和6年9月13日
制作・印刷／㈱日進堂印刷所

県社協からのお知らせ

令和6年度県民介護講座（下期）のご案内

受講料 無料

二本松事務所では、介護に関する講義や実習を通じて基礎的な知識や技術を学んでいただく講座を実施しています。『介護』に関心のある方ならどなたでも参加できます。

初級介護講座
～はじめての介護講座　介護を学ぶ最初の一歩に最適！～

10/19日㊏　時間：午後1時～午後4時

介護実技基本講座
～知ってよかった！らくらく介護講座～

現場で働く介護のプロから『介護技術のコツ』を学べる実技中心の講座です。具体的な場面ごとに学べます！

時間各回：午後1時～午後4時

10/26㊏「安全な移乗・移動介助とその方法」
11/30㊏「食事の介助とその工夫」
12/ 7㊏「清潔を保つ方法」
令和7年
1/18㊏「排泄の介助とその方法」

介護ワンポイント講座
～知ってトクする！トクトク介護講座～

様々な介護分野で活躍する講師をお呼びし、それぞれのテーマについて詳しく学べる講義中心の講座です！

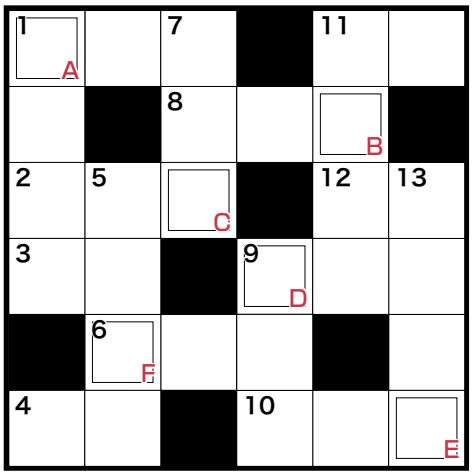
時間各回：午後1時～午後3時

11/16㊏「介護する人の心の健康」
12/21㊏「これは助かる！便利な福祉用具」
※15:00～16:00は自由参加で福祉機器展示室見学
令和7年
1/11㊏「医療と介護」
2/15㊏「認知症を理解してかかわり方を学ぼう！」

定　員　各回25名程度
会　場　福島県男女共生センター（二本松市郭内1丁目196-1）
講　師　福島県介護福祉士会 会員　ほか

お申込・お問い合わせ先
福島県社会福祉協議会　福祉研修課（二本松事務所）　介護実習・普及センター
電話 0243-23-8306　メール kaigo@fukushimakenshakyo.or.jp

クロスワードにチャレンジ！



▶ヨコのカギ
❶ 寸前。試合終了○○の逆転
❷ 片思いに例えられる高級貝
❸ 頭隠して○隠さず
❹ 生のヨコ⑧と酢飯で作る和食
❻ サッちゃんはね半分しか食べられないの
❽ メインは肉?それとも…
❾ 深川飯に使われる貝
❿ きんぴらが美味しい根菜。漢字で『牛蒡』
⓫ 秋のコレは嫁に食わすな
⓬ 焼鳥の『せせり』はここのお肉

▼タテのカギ
❶「お手」「おかわり」をする足
❺ おてもと
❼ ヨコ④の符牒で『ナミダ』
❾ ウナギに似た海水魚。蒲焼きや天ぷらに
⓫ 1月7日にお粥に入れて食べます
⓭ ごくわずか。ビタミン・ミネラルは○○栄養素

全部できたら二重ワクの文字をABC順に読んでいくと、それが答えです。

A　B　C　D　E　F

応募方法　ハガキまたはEメールにパズルの答えと ①住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号、業種 ②本誌に対するご意見、ご感想、ご要望を全てご記入の上、ご応募ください。
締　切　令和6年10月15日（火）
宛　先　〒960-8141 福島市渡利字七社宮111
社会福祉法人 福島県社会福祉協議会「はあとふる・ふくしまパズル係」

メールでのご応募はこちら！

正解者の中から抽選で3名にプレゼントが当たる！

今月のプレゼント

あとりえ北山（いわき市）
豆乳入り焼きどーなつと焼菓子のセット

当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

多数のご応募ありがとうございました

8月号の正解　「シユウミツカ」（週3日）

※ご記入の個人情報は適切に管理し、目的以外に使用しません。
※本誌に対するご意見、ご感想、ご要望の一部は、「読者のおたより」に掲載させていただく場合もございます。

7月号に寄せられた 読者のおたよりから

毎回楽しみに拝読しています。表紙の写真にほっこりしました。ダブルケアは今後自分にも起こり得ることなので地域の支えなどが大切になってくると感じました。（35歳 建設業）

今は「ダブルケア」の時代になってきているのだと認識をあらたにさせられました。勉強させていただきました。次号も楽しみにしております。（57歳 交通事業者）

犬の散歩を通して、ウロウロ、キョロキョロと地域に目を向け、身近な人と言葉を交わすこと、すばらしいと思いました。（71歳 無職）

編集後記

避難者生活支援・相談センター
青山（あおやま） 矩仁（のりひと）

東日本大震災当時は全国からたくさんのご支援をいただき、今なお様々な形で応援をいただいています。能登半島地震、秋田・山形の大雨など災害が頻発していますが、全国から支援をいただいた福島県は恩返しの意も込めた支援ができればと思います。